

音のデザイン

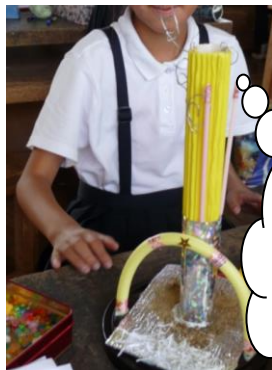
～見えないものを色や形に～

- めあて
- 音をイメージすることを楽しむ。
 - イメージした音を色や形に表す。
- 準備物
- ワークシート（教師）
 - 箱、綿、ビーズ、ボタン、アルミ、色画用紙、針金、石、木、段ボール、毛糸、セロファン、糸など（児童）



友達の音のイメージを鑑賞し合う

この森の名前はキラグルシユー
いろいろな音が聞こえてくるよ
コロコロ シューシュー
どどどくる シュワー
バーン メキメキ
バシャーン きらびる
キラキラキラ
ぐる がさがさ
今度は何が
聞こえるかな



作りたい音のイメージを大事につくる



〈渡り廊下を使って展示し、全校児童に見てもらう。〉

音の美術館開館

学習の流れ	実践上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな楽器の音を色や形で表す。（5cm程度の正方形のマスに描いていく。） ○気に入った音を今度は形に表す。 ○できた音のイメージを鑑賞し合う。 ○作品に題名をつけ、展覧会をする。 ○全校児童に『音の美術館』の案内チケットを配り開館する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 楽器を見えないように鳴らして聞かせる。（たいこや木琴、マラカス、ツリーチャイム、ギロなど。） • 自分の思いを活かしながら材料を選ばせる。 • オノマトペ（擬音語）に表してみても発想がひろがる。 • 自分の表したかった音について詩に書いたり、友達の作品に詩を書いたりしてもおもしろい。 • 同学年の児童に国語科「きいて、きいてきいてみよう」との関連を活かし、インタビュー形式で鑑賞会を行うとよい。 • 感想コーナーを設け、感想をもらうことで意欲も高まる。